

町長の行政報告（抜粋）

■東日本大震災からの早急な復旧・復興

- 住宅・宅地の除染は、平成25年度分をほぼ完了し、平成26年度分も順調に進んでいる。仮置き場は10箇所を確保し、整備工事や除去土壌などの搬入を進めている。
- ホールボディカウンターによる内部被ばく検査は高校生以下の検査が終了し、希望者の検査を実施中。
- ガラスバジによる外部被ばく検査は、中学生以下と希望者の検査を実施中。
- 県が実施する甲状腺検査は、事故当時の高校生以下を対象に11月中旬に実施予定。
- 平成26年産米の全量全袋検査は、放射性セシウムの吸収抑制対策に取り組み、国の基準を超える米は検出されないものと期待している。
- 地域間交流やトップセールスとして、7月から町特産のモモ販売を中心にミスピーチやモモ農家の青年と一緒に東京都や北海道、岐阜県、千葉県などで宣伝した。
- 国見町応援団事業は、8月に風評被害対策として中尊寺ハスの見学やモモ狩りなどを実施。参加者には国見町の応援団として支援と協力をお願いした。

■安全安心なまちづくり

- 地区ごとの防災訓練を10月19日（日）に実施。
- 今年2月の豪雪時、役場が国道4号線で渋滞した運転手などに支援物資や避難所を提供した活動に対し、国土交通省から表彰された。

■活力あるまちづくり

- （仮称）里まち文化ステーション（道の駅）は、都市計画変更が完了し、用地取得を協議中。

■町の継続的な維持発展

- 少子化対策は、8月に有識者や若者世代10人で少子化対策協議会を設置。年度末までに提言をまとめてもらう予定。
- 7月に個人県民税の収納優良町として昨年に続き県知事から感謝状を受けた。
- 地域住民と一緒に学校づくりを進めるために学校支援地域本部を立ち上げ、地域のボランティア延べ96人が学校教育を支援活動に参加。
- 夏季休業中、子どもたちを対象に「スイミング教室」や「平泉町との交流事業」などを実施。

意見書

9月定例会では意見書2件を全員賛成で可決し、国など関係機関へ送付しました。

「被災児童生徒就学支援等臨時特例交付金」による就学支援事業の継続を求める意見書

東日本大震災で被災した児童、生徒への就学支援事業を平成27年度以降も継続できるように、特例交付金制度の継続と必要な財政措置を求めるもの。

可決

手話言語法（仮称）制定を求める意見書

手話が音声言語と対等な言語であることを広く国民に示し、手話を言語として普及、研究するための環境整備を目的とした「手話言語法（仮称）」の制定を求めるもの。

可決

みなさんからの 請願・陳情

9月定例会では陳情3件を常任委員会で審査し、結果は以下のとおりとなりました。

陳 情	提 出 者	結 果
「公共工事における賃金等確保条例」（公契約条例）の早期制定を求める陳情書	全建総連 福島建設ユニオン 執行委員長 宮地 明 福島県飯坂建設組合 組合長 加藤勝雄	不採択 (採択に賛成2〔志村、浅野〕、 採択に反対9)
採択に賛成	浅野 富男議員	労働環境を守り、工事の質を確保するには条例が必要であり、本陳情は採択すべき。
「被災児童生徒就学支援等臨時特例交付金」による就学支援事業の継続を求める陳情書	福島県教職員組合 中央執行委員長 角田政志	採択（全員賛成）
「手話言語法（仮称）制定を求める意見書」の提出を求める陳情書	一般社団法人 福島県聴覚障害者協会 会長 吉田正勝	採択（全員賛成）

～6人の議員が登壇し、活発な議論を展開～



町政を問う

一般質問

9月定例会

一般質問とは、議員が町政全般にわたり執行状況や将来に対する方針など、諸問題について質問を行い、政治姿勢を明らかにするものです。

議員	質問事項	ページ
村上 晴夫	若者が魅力を感じる農業づくりを	12
井砂 善榮	多発している米のカメムシ被害対策は	13
松浦 常雄	夏休み中の小学校プールの利用を増やせないか	14
	学校のトイレが臭い。改善せよ。	
	桃せん孔細菌病対策を急げ	
	あんぼ柿の検査体制は大丈夫か	
浅野 富男	イベントも重要だが生活に関連した事業を	15
	夏祭りに自衛隊車両があったが	
	応援団ツアーの恩恵を町全体に	
	中尊寺古代ハスをどう生かすのか	
佐藤 定男	心停止に有効なAEDをどう活用していくのか	16
渡辺 勝弘	ふるさと納税者に特産農産物贈呈の目的は	17

質問、答弁は要約して掲載しています。会議録全文は、町議会ホームページに掲載予定です。[<http://www.town.kunimi.fukushima.jp/groups/gikai/>]

国見町議会ホームページ → 会議録検索 → 会議録検索システム → 会議録検索システムへ